

岐阜県・(公社)岐阜県理学療法士会 主催  
小児・障がい児(者)リハビリテーション専門研修 レポート

平成31年2月10日(日)・11日(月祝)、岐阜県総合医療センターにて、群馬パース大学の中徹先生を講師に、「小児理学療法における活動と参加の評価・アプローチ方法」の研修会が行われました。参加者は、理学療法士が40名、作業療法士が2名、スタッフが8名でした。

この講習会は毎年1回、全5回シリーズで行われます。今回はその3回目。初めて参加される方が大半でしたが、はじめに過去2年分の復習をしていただき、「小児領域は難しい。とっかかりにくい」という概念を覆していただきました。

さて、あなたは現在の臨床で介助する際、力加減(介助量)を7段階に分けてアプローチすることができますか?できる限り、本人の持つ動作能力を妨げず、動きづらいところを適当な介助量で補う。これを的確に行うには、介助量を7段階ぐらい調整できるぐらいの感受性が必要だと学びました。参加者同士で、お互いの介助量が今何%かクイズを出しながら、必要な時に必要な力で介助できるようにペアで体感しました。



2日目は、寝返り～立ち上がりまでのハンドリングのコツを全員で体感しました。毎日無意識に行っている動作も、相手に体で伝えていくのは難しいものです。こどもが「自分の力で動けた!」と実感できるように、動きを妨げず、本人が持っている能力を最大限つかって動作が遂行できるように、参加者同士で何度も繰り返し練習しました。中先生が目の前で実践していただき、とてもわかりやすく、こどもだけでなく、明日からの臨床で生かせる技術を多く学びました。

次回はより具体的にケースを持ち寄りながらの研修を検討されているとのこと。はじめての方もケースを通して、小児領域のイメージがつかめるのではないのでしょうか。

次回もとても楽しみです。

学術局研修部部員  
特定非営利活動法人はびりす  
鹿野 昭幸